



図 16.14 老人性色素斑 (senile lentigo, senile freckle)
類円型境界明瞭な褐色斑。一部が若干隆起して脂漏性角化症へと移行する場合がある。



図 16.15 Addison 病 (Addison's disease)

6. 老人性色素斑 senile lentigo, senile freckle

同義語：日光黒子 (solar lentigo)

定義・症状

ほとんどの中年以降の男女に出現する。主に顔面や手背、前腕伸側などの露光部において、類円形で大小種々の褐色斑が出現する。境界は比較的明瞭で、ときに軽い落屑^{らくせつ}を伴う (図 16.14)。一部は脂漏性角化症 (21 章 p.406) に移行する。

治療

アレキサンドライト、ルビーレーザー療法や凍結療法など。

7. Addison 病 Addison's disease

★

副腎皮質ホルモンの分泌低下により、下垂体前葉からの ACTH や MSH 分泌が亢進し、これがメラノサイトを刺激して色素沈着をきたす (図 16.15)。色素沈着は全身に認められるが、とくに掌紋部、膝、肘、乳輪、腋窩、外陰部に強い。舌や歯肉、口腔粘膜など生理的に色素沈着の少ない部位にも色素斑が認められ、診断に有用である。

8. 光線性花弁状色素斑 pigmentatio petaloides actinica

肩から上背部にかけて、数 mm ～ 1 cm 大までの花弁状～金平糖形の境界鮮明な褐色色素斑が多発する (図 16.16)。色白の人が海水浴などで水疱が生じるほどの強い日焼けをした後、1 ～ 3 か月後に多発性に出現することが多い。

9. 色素異常性固定紅斑 erythema dyschromicum perstans, ashy dermatosis

有色人種の体幹や四肢に小紅斑が多発し、まもなく 1 ～ 3 cm 大の灰白～灰青色斑となる。辺縁に紅斑性隆起を伴うこ

網状肢端色素沈着症 (北村)

(reticulate acropigmentation of Kitamura, acropigmentation reticularis)

四肢末端に軽度陥凹した小褐色斑が多発し、融合して網状になる。手掌足底に点状陥凹を伴う。常染色体優性遺伝形式をとり、ADAM10 が原因遺伝子であることが最近判明した。

MEMO



図 16.16 光線性花弁状色素斑 (pigmentatio petaloides actinica)
尋常性白斑 (中央部) に対する PUVA 療法施行後に生じた例。



図 16.17 色素異常性固定紅斑 (erythema dyschromicum perstans, ashy dermatosis)
灰青色斑の皮疹および皮疹辺縁に紅斑性皮疹を認める。

ともある (図 16.17)。まれに瘙痒を伴うことがあるが、多くは自覚症状を欠き、慢性に経過する原因不明の疾患。薬剤誘発性あるいは扁平苔癬^{たいせん}の一型として本症に一致する皮疹が生じることがある。

C. 異物沈着によるもの diseases caused by extrinsic deposition

1. 柑皮症^{かんぴ} carotenosis (cutis), aurantiasis cutis

定義・病因・症状

血中カロテン濃度が上昇した結果、角層および皮下脂肪組織にカロテンが沈着して黄色調を呈するようになったものである (図 16.18)。手掌足底などの過角化部に目立つ。顔面 (前額、鼻翼、鼻唇溝など) にも色調変化が現れることがあるが、強膜などの粘膜に生じることはなく、汎発化することもほとんどない。自覚症状はない。一般に、血中カロテン濃度が 0.5 mg/dL を越える状態が 1～2 か月続くと症状が出現する。この高カロテン血症 (carotenemia) はカロテン含有食物 (柑橘類、カボチャ、ニンジン、ホウレンソウ、ノリ、トウモロコシ、卵黄、バターなど) の大量摂取や肝機能障害 (カロテンがビタミン A に代謝されず、血中カロテン濃度が上昇)、脂質異常症 (カロテンは脂溶性のため、脂質異常症により血中濃度が上昇しやすい) による。



図 16.18 柑皮症 (carotenosis, aurantiasis cutis)
手掌の黄色調変化。